

目次

第15講	小説(2)―表現理解・主題把握	114
第14講	小説(1)―心情把握	106
第13講	随想・随筆(2)―主題把握	98
第12講	随想・随筆(1)―内容説明	90
第11講	論説・評論(11)―記述	82
第10講	論説・評論(10)―内容合致② 主題・要旨判定	74
第9講	論説・評論(9)―内容合致① 内容判定	66
第8講	論説・評論(8)―理由説明	58
第7講	論説・評論(7)―内容説明④ 内容把握	50
第6講	論説・評論(6)―内容説明③ 全体内容説明	42
第5講	論説・評論(5)―内容説明② 部分内容説明	34
第4講	論説・評論(4)―内容説明① 指示語	26
第3講	論説・評論(3)―脱文挿入	18
第2講	論説・評論(2)―空所補充② 語句	10
第1講	論説・評論(1)―空所補充① 接続詞・副詞	2

二 要点整理

空所に適切な接続詞・副詞を入れる設問。接続詞の補充は、接続詞の働き、意味・用法の理解を前提に、空所前後の論理的関係を把握させるものである。副詞の補充は、叙述のうえでの働きと用法の理解とともに、被修飾語句の様態や程度が文脈のうえからの確に把握できているかどうかをみるものである。

◎主要設問形式

・ に入る最も適当な語を、次の選択肢から選び、記号で答えよ。

◎解法のポイント

- 空所前後の内容をつかみ、両者がどのような関係（話題転換・順接・逆接など）にあるのかを考える。
- 程度・状態・頻度という副詞の働きをおさえ、その被修飾語句との適正な叙述関係を考える。
- 呼応（陳述）の副詞の場合は、空所の後に出てくる呼応表現に着目する。

◆◆ 基本問題

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

35 30 25 20

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

25 20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

55 50 45 40 35 30

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

85

80

75

70

65

60

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

115

110

105

100

95

90

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(中村明「文章の技」による)

問一 A Fに入る最も適当なものを、次のア～コからそれぞれ一つずつ

つ選び、記号で答えよ。ただし、同じものを二度以上用いてはならない。

ア けつして イ けつこう ウ いくら エ ぜひ

オ やつと カ 一切 キ いや ク 宿命的な

ケ 逆説的な コ 普遍的な

A B C

D E F

問二 Xに入る最も適当なものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えよ。

ア 中身の容易さ イ 中身の確実さ ウ 中身の空虚さ

エ 中身の濃さ オ 中身の危なさ

問三 線①「読み手の負担を軽くする配慮」として、筆者が述べているこ

とに合致するものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えよ。

ア わたしたちが普段手紙でそうしているように、誰にでもわかるように

やさしく書くこと。

イ あいまいさをさけて、つねに一つの意味にしか解釈できないような表

現を心がけること。

ウ 陳腐なことを避け、すこしは凝った言いまわしをし、またしなやか

に表現すること。

エ 書き手は、あいまいさが生じる条件をあらかじめ承知しておくこと。

130

125

120

オ 苦勞してでも読んでよかったと相手が満足できるような内容をもりこむこと。

問四 線②「その基本的な要因は、言語表現そのものの構造にある」の具

体例として適当でないものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えよ。

ア 「ないものはない。」は、「すべてである。」の意味にもなるし、「ないから、ないのだ。」の意味にもなる。

イ 「医者 of 叔父」には、「医者をやっている叔父」と「医者から見て叔父にあたる人」の二通りの解釈ができる。

ウ 高さを意味する「高度」も、硬さを意味する「硬度」も、明るさを意味する「光度」も同じように発音される。

エ 「かたい」は「かたい石」のように、壊したり形を変えたりしにくい様子をあらわしたり、「かたい話」のように、まじめな様子をあらわしたりする。

オ 「きのう」と「昨日」は同じ意味だが、「きのう」よりも「昨日」のほうが改まった感じがする。

問五 線③からはじまる段落の記述を参考にして、「修飾する際に、単に説明しているだけ」と解釈できる例を、次のア～オから一つ選び、記号で答えよ。

ア まるいパン イ まるい顔 ウ まるい輪

エ まるいテーブル オ まるい穴

問六 本文の内容と合致するものを次のア～オから二つ選び、記号で答えよ。

ア 明晰な内容を述べるためには、いくらかは複雑な文章にならざるをえない。

イ ことばによる伝達行為には、ことばそのものの構造からどうしても避けることができない、誤解をまねく危険性がひそんでいる。

ウ 人に読んでもらえる文章を書くには、相手が満足できる内容をもりこむことよりも、読み手の負担を軽くすることがまず重要である。

エ あいまいな表現は、たいていの場合、文脈によって解決されるので、書き手はそれをさほど気にしなくてもよい。

オ 文章は、読んでもらう相手に合わせて、気どらずに明確に書く方がよい。

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

25 20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

55 50 45 40 35 30

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(池田清彦「分類という思想」による)

60

65

70

問一

□ A～Dに入らない語として最も適当なものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えよ。ただし、他の語は□ A～Dにそれぞれ一つずつ入る。

- ア 従って イ だから ウ しかし
エ もちろん オ たとえば

〔 〕

8

問二

——線①に該当する漢字を含むものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 交通イ犯 イ イ論続出 ウ 校舎イ転
エ イ志疎通 オ 無イ無策

〔 〕

問三

□ Eに入る最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 価値の中立性に疑いが生じることはない
イ 人間の都合によって左右されることはない
ウ 同じ事物が異なるグループに入ることはない
エ 自然物であるかどうかの判断に迷うことはない

〔 〕

問四

□ F・Gに入る最も適当なものを、次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- ア A イ B ウ 非A エ 非B

G F
〔 〕 〔 〕

問五 Hに入る最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 我々が自然現象を見てナイーブに認識する類似性、すなわち自然言語の名が、この基準と矛盾する
- イ 複雑微妙な自然の秩序を反映するには、この基準がシンプルすぎるといふ事実を、思い知らされる
- ウ 二つの分類群が完全に等価であっても、あまりにアンバランスで、基準としての意味をなさない
- エ その実は人間の感覚の恣意性によって、ピックアップされた基準ではないか、という疑いが生じる

問六 I～Kに入る最も適当な語句を、次のア～オからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。ただし、同じものを二度以上用いてはならない。

- ア 一般的 イ 客観的 ウ 相対的
- エ 直観的 オ 明示的

I	J	K
(((
)))

問七 本文の論旨と合致するものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 人工物や観念につけられた名前は、本来は人間の都合によってつけられたものだが、そこから名前を切り取って自然の秩序に従って配列することができれば、自然分類の対象となる。
- イ 同一の個物が背反する分類群に同時に入ることはない、という基準を満たすことが自然分類の第一の条件で、たとえば脊椎動物・無脊椎動物という分類は、その条件を満たしている。
- ウ どのようなうまい分類を考えても、必ず例外というものは発生するので、その場合には雑やその他という項目をつくって、同等の価値をもつ

二つの分類群からは区別しておくべきだ。
エ 人間の感覚も自然の一部であり、自然の秩序を反映している以上、我々の感覚が識別できる基準というものは、おのずから価値中立的なものとなって、自然言語と矛盾をきたさない。

()